

# 龍谷大学 校友会報



【校友総数 230,000名】  
 2026(令和8)年3月15日  
 第102号  
 発行=龍谷大学校友会  
 編集=校友会広報部会  
<https://www.ryukoku.ac.jp>  
 京都市伏見区深草塚本町 67  
 龍谷大学内  
 校友会事務局  
 TEL075-645-2015 FAX075-645-2017

- ◎ 龍谷賞、支部長会、校友音楽祭、煩惱とクリエイティブ、イブニング、ホームカミングデー、龍 Ron Cafe: 2面
- ◎ 対談「戦後80年、戦争記録を伝える」: 3面
- ◎ 特集「私たち親子で龍大生」: 4、5面
- ◎ Pick up SNS: 6面
- ◎ 学部同窓会、支部の活動、コラム、パズル: 7面
- ◎ 仏教に学ぶ、校友のお店: 8面

**2026年度 全国校友大会in四国**  
 (香川県高松市)  
**2026年12月19日(土)**  
**開催決定!**  
 「ALL 龍大」で  
**世界記録に挑戦!**  
 詳細は校友会 HP  
 にて

Ryukoku Univ. Alumni News No.102

## 政策学部同窓会10周年

「つながり、ひきだす未来へのお祭り」

10月11日、深草キャンパスにて政策学部10周年記念事業「龍谷政策フェス2025」を開催しました。本事業は、1期生から10期生までの卒業生を中心に、仕事や家庭、育児など多様なライフスタイルと向き合いながら、「今だからこぞできる10周年」を形にしようと、約1年にわたる議論と準備を重ねて実現しました。

当日は、教職員・卒業生・在学生が一堂に会し、世代や立場を越えた交流が生まれました。ステージでは、豊かさや課題、学びの未来などをテーマにした政策学部

の先生方による特別レクチャーやトークセッション、参加型企画が展開され、政策学部ならではの学際的で自由闊達な内容が参加者を惹きつけました。クラフトビールやコーヒーを片手にトークイベントに参加できる雰囲気も好評で、学びと日常が自然に交わる同窓会が目指していた「龍谷政策フェス」らしい風景が広がりました。

また、会場には展示・ワークショップ、飲食ブースに加え、子どもたちが安心して遊べるスペースも設け、家族連れや卒業生や地域の



## 農学部創設10周年 農学研究科創設7周年記念事業開催

10月25日、瀬田キャンパスにて「農学部創設10周年・農学研究科創設7周年記念事業」を開催しました。

本事業は、農学部・農学研究科を支えてこられた多くのの方々への感謝と、「食と農の未来を考える」機会として実施しました。

当日は、龍谷大学客員教授で宇宙飛行士の土井隆雄

先生、本学初代農学部長の末原達郎先生を講師に迎え、「食と農の未来」をテーマに、宇宙から地域に至る幅広い視点から講演いただきました。

講演後、「農学部関連商品を味わいながら久しぶりの再会を」と題した記念懇親会を開催しました。

卒業生、在学生、教職員が一堂に会し、地域が関わった食品やお酒などを味わいながら、和やかな雰囲気の中で交流を深め、農学部の10年の歩みを支えてきた多くのの方々を再会し、これからの農学部の未来について語り合う貴重な時間となりました。

今後も農学部は、在学生・卒業生・教職員のつながりを力に、次の10年、そしてその先へと歩みを進めていきます。



方々の姿も多く見られました。現役生のお店の出店もあり、深草キャンパス全体を使った開放的な構成により、久しぶりの再会から初対面の出会い、つながりが生まれる一日となりました。

来場者は500名を超え、恩師の先生から、「感謝と感激の一日。チーム政策としてかわって来た当事者として感無量」との言葉も寄せいただきました。政策学部の歩みを確かめ、次の10年へとつなぐ節目の記念事業となりました。

## 龍谷大学校友会 「兵庫県・但丹支部」設立

10月25日、和山ホテルにて「兵庫県・但丹支部設立総会」が開催されました。

本支部は、かつて「兵庫県・丹篠支部」として丹波地域を中心に政策学部の学生による地域おこし活動や、法学部の学生による法律相談など、地域と学生を結ぶさまざまな支部活動に取り組んできましたが、コロナ禍で活動が休止。

そのため、丹篠支部の旧役員から新役員へと業務を引き継ぎ、活動地域を但馬地域まで拡大。支部名を新たに「兵庫県・但丹支部」とし、再スタートしました。

設立総会では、会則や事業計画、予算が承認され、篠倉庸良支部長(76年経営卒)のもと、副支部長、理事、監事が選任されました。

その後の設立記念祝賀会では、「但丹支部の歌」が披露され、参加者全員で合唱。食事は、但馬・丹波地域に縁のある料理やお酒が並び、地域の魅力をふんだんに感じるひとときとなりました。



また、学生によるマジックや落語も披露され、会場は終始和やかな雰囲気になりました。参加者同士の交流も活発に行われ、但丹支部の今後の活動が楽しみな設立総会となりました。

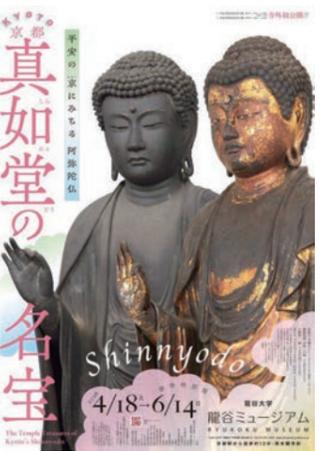


入会などのお問い合わせはこちらへ  
 お願いします。

## 龍谷ミュージアム 春季特別展 「京都・真如堂の名宝」

平安時代に戒算上人が開いた天台宗の古刹、真正極楽寺 真如堂に伝わる仏像や仏画、経典、近世絵画に、真如堂創建当時の都の平安仏を加えた約100件をご紹介します。

- ◆会期:2026年4月18日(土)~6月14日(日)
- ◆休館日:月曜日 (ただし、5月4日(月・祝)は開館)、5月7日(木)
- ◆開館時間:10:00~17:00 ※入館は16:30まで
- ◆入館料:一般1,600円
- ◆問い合わせ:龍谷大学 龍谷ミュージアム TEL 075-351-2500 <https://museum/ryukoku.ac.jp>



## 新事業~子育て世代応援企画~

### 第一弾!親子でレガッタ開催

11家族40名の皆様が参加。体育局端艇部の協力により、親子の絆が深まりました。



詳細は別紙にて

## 2026年度 校友会の主な事業(予定)

- ◆龍谷大学心の講座 (大宮) 野呂靖氏(龍谷大学心理学部教授) 姜暁艶氏(二胡奏者、医学博士) 4月18日(土)
- (深草) 天岸 淨圓氏(行信教団校長) 雷門 音助氏(落語家) 7月25日(土)
- (大宮) 木越 康氏(大谷大学学長) 安藤 徹氏(龍谷大学学長) 11月28日(土)
- ◆校友会賞贈呈式(深草:顕真館) 5月21日(木)
- ◆校友会総会(深草) 6月6日(土)
- ◆校友音楽祭(深草:顕真館) 10月11日(日)
- ◆ホームカミングデー(瀬田) 10月24日(土)
- ◆ホームカミングデー(深草) 11月1日(日)
- ◆龍谷賞贈呈式(深草:顕真館) 11月1日(日)
- ◆全国校友大会(高松市内) 12月19日(土)

## 龍谷ミュージアム 無料で優待券

期日:2026年6月14日(日)まで (同伴者1名を含め 無料でご入館いただけます)

# 第36回 龍谷賞受賞者

社会に貢献し、顕著な業績をあげた校友会員(卒業生)に対し、「龍谷賞」「龍谷奨励賞」と、校友会員に限定せずに顕著な活動をされた方へ「龍谷特別賞」を贈っています。

## 龍谷賞

フォトグラファー・ナチュラリスト



山本 光一さん (88年文卒)

通じて「自然を愛し守る心」「生命の大切さ、素晴らしさ」を届けることを使命とし、「シマエナガの伝道師」との愛称で活躍をされています。

## 龍谷奨励賞

作曲家・編曲家



丸本 大悟さん (03年文卒)

通じて「自然を愛し守る心」に寄与されています。またその楽曲は、全国高校生でも多数取り上げられ、中高生の人気楽曲となっています。

## 龍谷特別賞

浄土真宗本願寺派 善教寺住職 社会福祉法人護汝会(白道)子ども園・慈恵子ども園)理事長



土山 和雅さん (63年文卒)

卒業後、京都府警察本部で柔道のスペシャリストとして勤務。阿寒湖の大自然に魅せられ、97年に北海道へ移住。自然写真家として、野生動物や森の営みを撮り続けながら野生動物の調査研究、自然環境保全さらには次世代を担う子供たちへの自然環境教育にも尽力されています。

国内外で注目される野鳥「シマエナガ」との出逢いを

浄土真宗本願寺派善教寺に附属する「白道子ども園」においての仏教精神にもとづく幼児教育、地域における社会活動、さらにはスカウト活動を通して、青少年の養育に生涯をかけて貢献されています。

## 龍 Ron Café

11月2日、深草キャンパスにて、龍谷大学龍 Ron 小町主催の「龍 Ron Café」を開催しました。



今回のテーマは「防災」。日常生活での防災意識の高め方や、地域や周囲との連携について考え学ぶ場として、防災に携わる龍谷大学の先生お二方の講演を実施しました。

併せて、「ボランティアNP.O・活動センター」所属の学生による防災ワークショップを開催し、避難所でも使える新聞紙スリッパ作りを体験しました。学生お手製の防災クイズも用意され、大人から子どもまで楽しみながら防災について学ぶ時間となりました。



また、龍 Ron Caféでは、学生ボランティア団体「のとコネクト」がセレクトした、能登地方を中心とした石川県の物産などを提供し、購入を通じて被災地支援にもつながる取り組みとなりました。

# 第40回全国支部長会開催

分科会テーマは「支部で楽しめることを考えよう」



11月1日、国内外あわせて43支部から74名が参加し、支部活動の未来をともに考える、活気あふれる一日となりました。

また今年も、「20代・30代が考える校友会の未来」をテーマにした若手グループを設置。11名の若手会員と本部の若手役員が率直に意見を交わし、若手校友が主体的に企画・実施できる仕組みや、同世代同士が気軽に声を掛け合える環境づくりの必要性など、未来に向けた建設的な提案が数多くありました。

終了後は、新棟「聞思館(もんしかん)2階フードコート」へ移動し、和やかな雰囲気の中で会話が弾み、支部を越えたつながりがいっそう深まるひとときとなりました。

また今年も、「20代・30代が考える校友会の未来」をテーマにした若手グループを設置。11名の若手会員と本部の若手役員が率直に意見を交わし、若手校友が主体的に企画・実施できる仕組みや、同世代同士が気軽に声を掛け合える環境づくりの必要性など、未来に向けた建設的な提案が数多くありました。

## ホームカミングデー

10月26日、瀬田キャンパス、11月2日、深草キャンパスにて開催しました。卒業生だけでなく、ご家族やご友人にも千円分の学生模擬店利用券を配布する恒例企画は、今年も大好評。学生の課外活動を応援する取り組みとして、校友会が大切に行っている企画のひとつです。

今年、龍谷賞受賞者・山本光一さんによる「シマエナガ写真展」や、龍 Ron 小町企画の「龍 Ron Café」など、深草キャンパスを中心に特別企画も開催され、龍谷大学祭・学術文化祭と同時開催となったことで、より多くの方々に校友会の活動を知っていただく機会となりました。

## 煩惱とクリエイティビティ

～2025年度は2回開催。最近熱心な学生さんの参加が増えました～

### 7月5日

ゲスト：三宅香帆氏(書評家・作家) 仏教ナビゲーター：入澤崇先生(学校法人龍谷大学理事長、龍谷大学前学長) テーマは「読む・書く・語るの現在地」。三宅さんは中央公論社が主催する「新書大賞 2025」にて史上最年少で大賞を受賞されました。

～キーワード～

- 半身の重要性 ● 「あいまいさ」という日本の美德 ● 「空っぽ」である自分を確保する時間



オンデマンド配信はこちら

### 12月13日

ゲスト：別所哲也氏(俳優・国際短編映画祭代表) 仏教ナビゲーター：野呂靖先生(龍谷大学心理学部教授) テーマは「文化とエンターテインメント」。別所さんの人生経験と飾らぬ言葉に共感者が続出。体験型イベントでは参加者全員と言葉を交わされる人間味あふれる方でした。

～キーワード～

- 明け渡すことで楽になる ● しなやかさ、身をゆだねる ● 弱い自分も出せるとは ● 「空」の思想が俳優の行き着く姿と相通じる



## 校友音楽祭

会場に入りきれないほどの熱気に包まれて

9月28日、昨年に続き、深草キャンパス成就館にて開催されました。多くのご来場者で会場に入りきれないほどの盛況ぶり。モニタールームを設けるほどで、「校友音楽祭」への期待と熱気が満ちあふれていました。

オープニングは、ラポールOBORG会。円熟味を増した歌声が会場いっぱいに響き渡りました。

続いては砂川小学校金管バンドの15名の生徒さんが出演。ご家族の温かなまなざしに見守られながら、練習の成果を披露してくださいました。

24年度全国コンクールで日本一に輝いた龍谷大学吹奏楽部のサクソフォン四重奏は、今年も圧巻のステージを展開。吹奏楽に取組む



また「お子さま広場」では、今年も野外活動部の学生たちが小さな子どもたちと元氣いっぱい遊び、保護者の方々からは「安心して音楽祭を楽しめる」と好評でした。「音楽」をキーワードに、地域と大学、そして校友会がつながり、調和する事業として大切な校友音楽祭。来年も、多くの笑顔とすばらしい音色に出会えることを願っています。

# 戦後80年、龍谷大学に残された記録と平和へのメッセージ

## 戦後80年を刻む静かなる声―龍谷大学が読み継ぐ戦争の記憶

二〇二五年はアジア・太平洋戦争の終結から80年という大きな節目の年でした。  
私たちは今、龍谷大学に残された「戦争の記録」をどのよう  
に未来へ繋ぐべきかを問われています。

11月17日、深草キャンパスで「戦争記録を伝える」と題した対談と朗読の催し(主催・龍谷大学図書館、宗教部、龍谷エクステンションセンター)が開かれました。

対談では、司会の新田光子先生が、「私たちが実際に見ることができない人と事物を、どう再現し解釈するか」を、歴史学者の赤松徹眞先生と俳優の浜名実貴さんに尋ねました。

赤松徹眞氏(校友会会長)・国体と統制の影、そして歪められた教学の自由

私は、仏教史および真宗史の研究者として、戦時下の龍谷大学、そして本願寺教団がいかなる歩みをして来たのかについて歴史的事実、記録を見つめてまいりました。龍谷大学という名称は、一九二二(大正11)年から用いられていますが、旧大学令では当時の文部省が宗教名を冠した大学



赤松徹眞氏(校友会会長)

名を認めなかったため、それまでの「仏教大学」を改称したという経緯があります。この事実は、戦争へと向かう時代の中で、学問や宗教がいかに国家や政府の統制下に置かれようとしていたかを象徴しています。

一九三二年の満州事変以降、社会全体が戦争へと動員される中で、最も重視されたのが「国体」という考え方でした。一九二五年制定の治安維持法がその統制を支え、天皇を国家の中心に据える体制への疑問・批判は、一切許されない社会が形成されて、批判した人を「非国民」といって、排斥したのです。

その圧力は、具体的な「言葉」の規制となって現れました。一九三六年頃から、『教行信証』中の「主上臣下背法違義」などの文を伏字するという聖典削除問題が起こりました。一九三八年には「真宗要義」という教科書中の「勅命」「教勅」などの言葉が天皇への不敬にあたるなどと文部大臣名で厳重注意され、削除・改訂するようなことがありました。

一九四〇年には本願寺教団でも「聖教の拝読ならびに引用の心得」という通達が出されるなど、天皇や皇室に関わる文字を使用自粛して、教学の自由は著しく制限されたのです。こうした統制の影響は、戦後も長く尾を引きました。私自身、大学在学中の教科書に戦前の削除跡(『教行信証』後序の「主上臣下背法違義」の「主

龍谷大学関係略年表		
〔戦争と龍谷大学〕：龍谷大学創立三百七十年記念展観図録より		
西暦	年号	年
1922(大正11)年	5月	大学令による大学設立の認可をうけ、「仏教大学」から「龍谷大学」に改称
1925(大正14)年		軍事教練開始
1927(昭和2)年	4月	・徴兵令改正、「兵役法」に改称
1928(昭和3)年	1月	女子の入学が許可される
1931(昭和6)年	9月	・満州事変
1932(昭和7)年	1月	・第一次上海事変
1937(昭和12)年	8月	・第二次上海事変
1938(昭和13)年	4月	・「国家総動員法」公布
1939(昭和14)年	2月	樹徳寮開設
〃	7月	『龍谷大学三百年史』発刊
〃	9月	・第二次世界大戦開始
〃	10月	龍谷大学創立三百年記念式典挙行
1940(昭和15)年	9月	・日独伊三国同盟に調印
1941(昭和16)年	10月	龍谷学園報国際、本山で結成式
〃	11月	・大学本科・専門学校などの修業年限3ヶ月短縮を決定
〃	12月	・高校・大学予科を含め次年度に修業年限6ヶ月短縮を決定
1942(昭和17)年	9月	第1回繰り上げ卒業式(学部・研究科・専門部)第1回臨時徴兵検査実施
1943(昭和18)年	10月	六ヶ月繰り上げ卒業式の実施(予科も含む全て)
〃	11月	本願寺で出陣学徒壮行式挙行
〃		・徴兵年齢を満19歳に引き下げ
1944(昭和19)年	6月	予科、専門部2年生、7月上旬より勤労作業につき、この月をもって当分休講
〃	11月	予科、専門部残留学生対象の授業を中止
1945(昭和20)年	3月	3月中で授業を打ち切り
〃	4月	・東京・大阪など空襲
〃	8月	・沖縄戦
		・広島に原子爆弾投下
		・ソ連、満州に侵攻
		・長崎に原子爆弾投下
		・ポツダム宣言受諾

上」の部分を伏字にして印刷)がそのまま残して発刊されていたことを、今振り返っても不思議に思いません。敗戦後に出版の自由を始めさまざまな自由を獲得したにもかかわらず、

戦争の記録を読み解くことは、当時の大学や教団が建学の精神、親鸞聖人のみ教えをかかげながら、どのような歴史的条件のもとで何を考えながら、歩んでいったのかを理解することになります。戦後80年にあたって、このような取り組みを大学としておこなうことが、新たに学生を戦場におくる過ちを繰り返さないための手がかりになるのだと、私は考えています。



前進座俳優の浜名実貴さん

記録からは、戦争によって断絶された「日常」が見えてきます。例えば、野球部に所属していた植野君五郎さんの記録からは、学業やサークル活動に励む当時の普通の学生生活が鮮やかに伝わってきます。しかし、名簿に収録された方の約50%は、終戦の年である昭和20年に亡くなられました。戦没地はフィリピンや中国など広範囲に及び、末期になるほど

多くの若い命が失われていった残酷な現実を物語っています。記憶が遠ざかる今、資料を「読み継ぐ」ことの重みを、私はこの調査を通して痛感しています。  
この企画では、前進座俳優の浜名実貴さんにより、本学戦没者の一人である金丸玄真さんの記録が朗読されました。金丸さんは25歳の若さでビルマ(現在のミャンマー)で戦死されましたが、その最後の様子が「死の意味」と題して『月白の道』(丸山豊著)に綴られており、その一節が会場に響き渡りました。研究者が掘り起こした「静かな記録」が、朗読という行為を通じて、現代に生きる私たちの心に直接語りかける「生きた声」へと変わった瞬間でした。

赤松先生が指摘された構造的な統制と、新田先生が掘り起こされた個人の尊厳。これら二つの視点は、「語り継ぐ営み」によって一つに繋がります。大学に残された記録は、静かではありますが、非常に雄弁なものです。  
かつてこの大学で学び、未来を夢見ながらも、時代の荒波の中で日常を奪われていった若者たちがいました。彼らが残した記録に耳を傾け、その思想や苦悩を追体験し続けること。それが、戦後80年という節目を生きる私たちに課せられた、最も誠実な平和への貢献なのではないでしょうか。

私は、二〇二一年に刊行された『龍谷大学戦没者名簿』の作成において、調査者・記録者としての役割を担ってまいりました。この名簿は、単なるデータの集積ではなく、調査の当初から「戦争記録」として位置づけられたものです。大

学として初めての取り組みとなったこの調査では、学生、教職員、卒業生など、戦争によって命を落とされた30名の方々の足跡をたどりました。  
調査の拠り所となったのは、大学に保存されていた当時の学籍簿です。名簿を作成するにあたり、私たちは可能な限り顔写真を掲載することを目指しました。あるご遺族からは「写真は一枚しかない」という連絡をいただき、仏壇の横に飾られていた唯一の遺影を、ご自宅に伺って撮影させていただいたこともあります。

この名簿は、あえて一人につき一ページという共通の形式で構成しました。それは、残された資料の多寡に関わらず、亡くなられた全ての方々の尊厳を等しく記録したいという私たちの思想の現れだったのです。

今春、定年退職される先生方  
26年3月31日



新田光子子氏(龍谷大学名誉教授)

- 〈文学部〉
  - 能仁 正顕先生
  - 村岡 倫先生
- 〈経営学部〉
  - 嶋林 昭治先生
- 〈法学部〉
  - 佐藤 和弘先生
- 〈社会学部〉
  - 黒田 浩一郎先生
  - 築地 達郎先生
- 〈政策学部〉
  - 白石 克孝先生
- 〈国際学部〉
  - 久松 英二先生
  - 二葉 晃文先生
  - ブラドリー ウィリアム先生
- 〈先端理工学部〉
  - 飯田 晋司先生
  - 宮浦 富保先生
- 〈短期大学部〉
  - 松田 美智子先生

### 親子三代！ 龍大の第一印象

〈深草編〉

義宣…鹿児島の田舎から出てきたお父さんは、とにかくキャンパスの広さ、建物の大きさ、人の多さに圧倒された。ちょうど今の3号館が新しくできて地下の学食を食べに行ったことを覚えているな。赤レンガ構想はそのころからあったのでは。

義彰…へ～そうなんだ。僕も今の赤レンガだらけの建物には感動してすごいな～と思ったよ。人もいっぱいいるし。外国人の多いのにもびっくりしたね。さすが京都って感じ。

大宣…おじいちゃんの頃はまだ顕真館もなかったね。今の体育館の辺りは運動場だったよ。

〈大宮編〉

義宣…本館をはじめ、歴史を感じられる建物がたくさんあって、落ち着きと安心感を感じたね。

義彰…そうそう。大宮キャンパスは落ち着いた雰囲気だよ。

大宣…おじいちゃんの頃は南麓は寮になっていて、おじいちゃんはそのに住んでたよ。その頃から重要文化財だったので、決まりごとが多くて難儀したよ。

義宣…龍谷大学学歌に「永久に揺がぬ みのり聞き」と出てくるけど、建物は変わっても本館や顕真館などの変わらない建物やキャンパスで、永久に揺ぐ事のない浄土真宗のおみのを、おじいちゃん、お父さん、義彰、ひいじいちゃんもだね、代々にわたり学ばせて頂いて有り難いね。義彰も残らない学生生活を頑張れよ。



山内 大宣さん (1966年文学部) 山内 義彰さん (文学部3回生) 山内 義宣さん (1993年文学部)

### 親子で感じる龍大の魅力

— 学部への期待

順爾…「経営学」という初めて学ぶ授業を楽しみにしていました。授業名に「マーケティング」や「戦略的」といった単語がついていたのもテンションが上がりました。

浄爾…「英語英米文学科」に決めたのは、純粋に英語を学びたかったからです。3回生から大宮学舎に通えるのも楽しみでした。

— キャンパスの印象

順爾…広大な土地に赤レンガの大きな校舎がいくつも立ち並び、多くの学生が行き来する風景は壮観でした。

浄爾…深草キャンパスは賑わっていていつも活気があります。大宮キャンパスは、趣あるたたずまいで落ち着いた感じですよ。それぞれのキャンパスの良さを体験できています。

— 思い出の学食

順爾…大学のことを思い出す場面は「ニチカ」(2号館の地下食堂)でパスタたべながら友人と談笑しているところです。行けば誰か友人と会えるので授業がなくともニチカにいた記憶があります。

浄爾…大宮で新しくできた前田珈琲は学割が使えるからよく利用します。長い時間、友達と過ごせるから学食は貴重な場所でありたいです。



辻本 順爾さん (1995年経営学部) 辻本 浄爾さん (文学部3回生)

私たち

ご寄稿  
ありがとうございました

# 親子で 龍大生!

校友と在校生の親子に広くお声がけし、お寄せいただいた五組のお話から、世代をこえて受け継がれる龍大への想いが見えてきました。同じキャンパスでつながる親子が語る、昔と今の交差する時間をお届けします。

深草キャンパス 1987年ごろ池は四角かった



深草キャンパス 2026年1月



### 陸上競技部創部100周年記念祝賀会



1月11日、深草キャンパスにて「龍谷大学陸上競技部創部100周年記念祝賀会」を開催し、OB・OG、学生、関係者、来賓合わせて240名が参加しました。

当日は、世界陸上東京大会に女子35KM代表で出場し、女子選手世界陸上最多出場記録7回を打ちたてたOGの淵瀬真寿美さんに龍走会特別賞を授与。淵瀬さんからは「競技を継続してきた中で、大学時代に培った自主性が今も生きている。今後も応援をお願いします。」と今後も現役続行の意向を述べられました。

OBで2000年シドニー五輪男子陸上1万メートル7位で、現日本陸連シニアディレクターの高岡寿成さんからは、ビデオメッセージが寄せられました。

祝賀会では、1998・1999年全日本大学女子駅伝出場のメンバーや、全日本大学女子駅伝・日本インカレ・日本学生個人での入賞者、関西インカレ優勝者などが登壇し、当時を振り返りました。



### 端艇部創部130周年記念事業



10月12日、滋賀県・瀬田唐橋近くの「龍谷大学艇庫」にて、OB・OGが集い、端艇部創部130周年記念乗艇会を実施しました。

続いて、近くにある「Café&Restaurant LaCOSSO」に会場を移し、記念式典および祝賀会を開催しました。

祝賀会には、オンラインでの参加や現役部員を含め114名が出席しました。端艇部は1895年創部の本学で最も長い歴史を持ち、現在46名の部員が所属しています。

インカレや全日本選手権での日本一を目標に、日々練習に励んでいます。本行事を通じてOB・OGと現役学生が結束を深め、次の150周年という節目に向けて、歴史と伝統をあらためて確認し、次の一步を踏み出す機会となりました。



### 心理学の学びとキャンパスライフ

#### — 実践的な学びと社会への貢献(長男の経験)

**巧照**…心理学の実習はどうだった?

**瑛照**…まずは児童福祉施設では、実習先の心理師から「地域とのコミュニケーションが将来的な防犯(安全な地域づくり)につながる」という心理職の社会的役割の広がりを感じることができた。また、医療現場の実習では、医療現場の問題点や、今後加速する多様化社会において心理師がどのように介入すべきかという、生きた課題に触れることができた。

**巧照**…文献学中心の学びをしてきた父にとって現代のインターンや実習といった「現場で学ぶ機会」は非常に価値があり、羨ましい教育環境であると思う。

#### — 大学という「多様な価値観」の交差点

**瑛照**…全国各地から集まる「価値観の異なる学生」との交流は、自分の視野を広めている。

**巧照**…それは30年前のお父さんにとっても、視野を広げるための不可欠なプロセスとなった。そういうことを聞くと時代が変わっても多くの学友と接して得られる刺激は、特に龍谷大学の特色でもあるのではないかと。

#### — 進化する教育環境と親の願い

**瑛照**…学業の中心は大宮学舎・深草学舎で、かなり充実した綺麗な施設で学ぶことができている。

**巧照**…お父さんもまた、30年前からさらに進化したキャンパスの姿に驚きを隠せない。最後に親の立場から、「学生時代にしか得られない経験」が数多くあり、今後も積極的に経験値を積み上げてほしい。



黒龍 瑛照さん (心理学部3回生) 黒龍 巧照さん (1996年文学研究科)

### 親子の龍大 Q&A

#### Q.どのような学生生活?

**英樹**…文学部哲学科教育学専攻に在籍していて教職課程の授業がたくさんありながらも楽しい4年間でした。

**寛司**…経営学部経営学科に在籍しています。学業・アルバイト・サークル活動と忙しい日々ですが毎日充実していて、楽しく過ごしています。

#### Q.キャンパスで一番好きなところは?

**英樹**…深草キャンパスにいた時は、3号館地下食堂が憩いの場でした。

**寛司**…成就館のフリースペースです。とても落ち着いた雰囲気、空きコマの時間に課題を進めたり、休憩したりするのにぴったりの場所です。

#### Q.親と同じ大学で学ぶことになってどう思った?

**寛司**…とても心強く感じました。特に頼ったことはありませんが、今後何か困ったことがあれば相談できる存在がいるのは安心です。

#### Q.子どもが同じ大学で学ぶことになって、どう思った?

**英樹**…ご縁なのかもしれません。学部も違うので話を聞くと、新鮮に感じます。

#### Q.これからどんな学生生活を過ごしていきたい?

**寛司**…2年生になるので、将来のことを意識しながら授業やゼミに力を入れていきたいと考えています。一方で、学生生活も楽しみたいので、旅行に出かけたり、京都の街を開拓したりして、今しかできない経験も大切にしたいです。

#### Q.龍谷大学に望むことは?

**英樹**…私がいたころとはずいぶん変わっていて憩いの場が多いですね。学生一人ひとりが将来をみすえ伸び伸びと過ごせる大学であってほしいと思います。



佐古田 寛司さん (経営学部1回生) 佐古田 英樹さん (1999年文学部)

### 龍大、ありがとね

**郁尚**…何十年ぶりに、深草と大宮を訪れたとき校舎はすっかり様変わりしてたから驚いたよ。

**智尚**…お父さんの時は瀬田キャンパスなかったよね。

**郁尚**…そうそう。なかった。

**智尚**…僕はそこに2年間に通ってたけど、他のキャンパスと違って、自然が豊かで、僕の性格に合ってたな。

**郁尚**…それはよかった。

龍大の思い出と言えば、やっぱり学食かな。まあ、時効だから言うけど、大宮では学食のおばさんと仲良くなって、こっそり持っていった弁当箱にご飯を詰めてもらって、それを夕飯として食べてた(笑)

もちろん、その分のお金は払ってたぞ!

**智尚**…僕は、百縁夕食のヘビーユーザーなんだ。毎回、欠かさず予約入れて、おばちゃんと仲良くなってよ。学食のおばちゃんと仲良くなるのは、親子共通よね(笑)

**郁尚**…そういえば、夏場、ソフトクリームを自分の好きな量を、カップに入れることができ、入れ放題だったのは嬉しかったな。

**智尚**…まじで!?今は入れ放題じゃないけど、深草ならソフトクリーム食べれるよ。食べたかったら、今度一緒に食べようか(笑)

**郁尚**…いいね(笑)

まあ、学食に限らず、宗教について幅広く学べたことは、本当によかった。

**智尚**…僕も社会学部で社会福祉士と精神保健福祉士の勉強してるし、部活もけっこう頑張ってる、毎日充実してるよ。親子で龍大に感謝やね。



浅野 智尚さん (社会学部3回生) 浅野 郁尚さん (1982年文学部)

### マンドリンオーケストラ 創部60周年記念演奏会

**60th ANNIVERSARY** 創部当初のレジェンド世代～現役学生まで総勢80名が集結し、龍大サウンドをお届けします。詳しくはWEBをご覧ください。ご来場をお待ちしております。

開催日時: 2026年6月20日(土)

開催地: 京都コンサートホール アンサンブルムラタ

時間: 13:00開演予定 [入場無料]

幹事: 28回 小柳, 40回 荒川



### 相撲部の新道場完成記念式

12月6日、深草キャンパス新棟「朋友館」相撲道場にて、相撲部新道場落成記念入式が執り行われました。新道場の特長は2面土俵、そしておそらく日本では本学だけである、「仏壇」が設置されていることです。入澤理事長による記念法話の後、在京都4大学(龍谷・立命館・同志社・京都)による対抗戦が行われ、団体戦・個人戦で龍谷大学はいずれも勝利。入式の後には京都東急ホテルに移動して、創部111年の歴史を持つ相撲部のOBも全国から集い、記念祝賀会で交流を深めました。



### バトン・チアSPIRITS創部50周年記念事業

**50th ANNIVERSARY** 10月12日、京都東急ホテルにて「バトン・チアSPIRITS創部50周年記念祝賀会」を開催いたしました。当日は、卒業生55名をはじめとする総勢104名の皆様にご出席いただき、盛大な会となりました。式典では、現役部員による力強い演技披露や、50年の歩みを辿る記念動画の上映が行われ、創部から半世紀にわたる歴史を振り返る貴重なひとときとなりました。



# Pick up!! SNS



## Seppo-CCQ「卒業生お二人で活動されている漫才法話コンビ」

「Seppo-CCQ」は、浄土真宗本願寺派の2人のご住職、那須弘紹師と藤岡教顕師が組んだ異色のコンビ。「説法」と、英語で「穏やかに(Calm)、近づいて(Close)、静かに(Quiet)」というコミュニケーションテクニックを示す「CCQ」を掛け合わせたコンビ名で、地元熊本を中心に地域の研修会などで漫才法話を披露され忙しい日々を送っておられます。YouTubeで配信されている動画もファンが多く、本堂をバックに展開される巧みな話術とテンポの良い掛け合いは、「住職とは思えないクオリティ」と話題に。コンビでの目標は、自分たちの活動に満足するのではなく漫才法話を聞きに来た人々が普通の法話を聞きたいなと思ってくれること、そしてお寺に足を運びご縁が繋がることだとお話しくださいました。Seppo-CCQの漫才説法に是非触れてみてください。

詳細はコチラ



## 経済学部教授・兵庫一也先生「のぞき見!先生のランチ」

今回は経済学部教授・兵庫一也先生のランチをのぞき見!訪れたのは深草キャンパス近くの人気店「オレンジハウス」。洋食を食べたくなると立ち寄られるそうです。  
◆先生の自己紹介「変わった髪型とスーツをあまり着ないことで知られているかも(笑)。研究テーマは“消費者の意思決定の基準”を明らかにすることです。」  
◆今日のランチは?「定食をいただきました。洋食が食べたい時はやっぱりオレンジハウスですね。」  
◆校友のみなさんへメッセージ「昔のイヤブックで、オレンジハウスが昔からあることを知りました。ぜひ龍大に帰ってきて、学生時代のお話を聞かせてください!」

詳細はコチラ



## 岐阜県支部「9月20日 ぎふ長良川鵜飼観賞会」

岐阜県支部特別企画「ぎふ長良川鵜飼観賞会」にお邪魔してきました。長良川鵜飼は、岐阜の夏の風物詩として1300年の歴史があるとされています。観覧船の船着き場付近は、風情ある古い町並みが残り、そばには岐阜城があります。今回の特別企画には日頃から交流のある三重県支部、石川県支部、東京支部からも参加者があり、川を渡る風に吹かれ炎に照らされる勇壮な鵜飼を観賞し、夏の終わりの優雅な川遊びを楽しみました。

詳細はコチラ



## 山口県支部「10月4日 龍Ron小町 秋のイベントりんご狩り&BBQ懇親会」

しもせりんご園の元気なレトリバーのお迎えで始まりました。オーナーから『りんご狩り』の説明を聞いた後、りんご園に移動し、今が旬の陽光・秋映など全6種類のりんご狩りをスタートしました。獲りたてのりんごは、甘く芳醇な香りが口いっぱいに広がります。「おいしい!」「いつもはこんなにたくさんりんごを食べることってないよね。」と、ひとしきりいろいろな種類のりんごを味わった後は、お待ちかねのBBQ懇親会。炭火を囲んでみんなでワイワイと賑やかに食べるBBQは格別で、阿東米のおむすびも艶々で美味。食後は、『ピタりんご王決定戦』なるりんごの重量当てクイズや自己紹介、近況報告をして親睦を深めました。『じゃんけん大会』では、勝った人から順に素敵なお土産をゲット。オーナーによる『りんご飴のクッキング』実演見学など盛りだくさんの日程でした。

詳細はコチラ



## 経営者の会「10月22日 (株)寺内製作所様の企業見学会」

(株)寺内製作所は京都市伏見区にあり、防衛、航空、宇宙、発電分野で使われる精密ボルト・ナットを一貫生産で製造されています。強みは抜群の品質管理です。社長の植月邦彦氏は95年法学部卒。植月社長に会社概要を説明頂いた後、工場見学が始まりました。防衛、航空、発電と機密事項の多い分野の仕事が多い為、工場内の写真撮影は厳禁でしたが、参加者には隅々まで見学が許され、その技術力の高さ、シビアな管理能力をこの目で見る事が出来ました。これぞ工場見学の醍醐味です。見学会終了後はもうひとつのお楽しみ、懇親会です。旧交を温めると共に、近況報告等を交わしながら楽しく過ごしました。

詳細はコチラ



## 三重県支部「11月29日 なばなの里にて秋の懇親会」

なばなの里内レストラン麦で集合。なばなの里にお勤めの先輩から差し入れていただいた長島温泉ビールで乾杯、和やかな時間を過ごしました。その後、園内を一緒に散策しました。秋と冬が混在する珍しい季節の園内はモミジの赤とキラキラしたイルミネーションに美しく彩られ、散策している間中、みな笑顔が優しく照らしていました。三重県支部では毎年楽しい企画を行っています。東海地区にお住まいの校友の皆様、ぜひ御参加ください!

詳細はコチラ



## 阪神支部「11月30日 秋の散策：中之島散策」

大阪、中之島に集合した私たちはNPO法人大阪観光ボランティアのガイドさんに案内されて中之島周辺にある有名建築を巡りました。重厚な石造りの中之島図書館、赤レンガが美しい大阪市中央公会堂など、関西のモダン文化の粋を集めた文化的建造物、川面に後ろ向きに立つ福沢諭吉生誕碑などガイドさんの解説を聞きながら、大阪のレトロモダンな歴史の深さを再発見する特別な一日を過ごしました。当日はお天気に恵まれ、温かな日となり、同窓の仲間と知的な刺激を分かち合う小トリップの時間はあっという間に過ぎてゆきました。阪神支部では年間を通じて楽しいイベントを行っています。京阪神地区にお住まいの校友の皆様、ご参加をお待ちしています。

詳細はコチラ



もっと読みたい方はコチラから



読み物コンテンツ 校友KIKOU





社会学部 教授  
井上見淳 (01年文院了)

# コラム 今も使える 仏教用語

## 「慧光館」・「灯炬館」

2025(令和7)年の4月の社会学部移転にともない、深草にできた素敵な3つの新校舎。その名は「闇思館」「灯炬館」「慧光館」と言います。この難しい名前について前回(聞思館)から紹介しています。

今回は「慧光館」と「灯炬館」。この2つ、実はよく似た意味なのです。「慧光」とは智慧の光という意味です。智慧とは仏さまの物の考え方やまなざしのこと。これを仏教では光に喩えるのです。次に「灯炬」とは、闇

を照らす灯火やたいまつの意味で、やはりそれは仏さまの智慧を喩えています。この場合、いずれも前提として「闇」と表現されている状態があるわけですが、これを仏教では無明と言います。つまりは真つ暗闇のことです。私たちは自分中心に捉えた物の考え方やまなざしのことを言います。闇は怖いですが、まず何がそこにあるのかわからないし、どっちを向いているのか途端にわからなくなるし、自分の姿もわからなくなる。しかも、なんか変なものが見えたらどうしよう、とかね。

ところで仏教の出発点は四苦といえます。生・老・病・死という不可避な事からを指していますが、特に問題なのは老・病・死です。これがなぜ苦しみなのか。それは私たちが、年は取らない、病氣もしたくない、死ぬのも平均寿命からすればけっこう先でしょ?と思いがちな生き方からくる。しかし実際には、いつのまにか思わぬかたちで老化

を自覚するし、予定外の病気になるし、もう死ななくてはならないのかとショックを受けていきます。なりたくないけど確実に来る未来。これをどう受け止めて超えていくのか。そこに仏教の出発点がありました。この仏教が説く真理から目を逸らして生きていく時、私たちは闇を作り出し不安におびえて生きていきます。いっぽうでその真理を受け入れて、教えに触れる時、自分の姿と行くべき方向を知らせてくれる灯り

が人生にともるのです。それが今ここにたまわっている「いのち」を真摯に生きるというのではないでしょう。先日、インターネットでシルバー川柳というのを見かけました。「味のある字と誉められた 手の震え」「目覚ましの ベルはまだか」と 起きて待つ」「カード増え 暗証番号 裏にかき」本性が 出ると言うから ぼけられぬ「うまかった 何を食べたか 忘れたが」「つまづいた ふと見た

床に 段差無し」。私はこれを見てははじめは思わず笑いました。しかしその後、ふかく感じしました。なぜならこれらは四苦から目を逸らすのではなく、むしろ笑いながら受け入れようとしていると思っただけです。「慧光館」と「灯炬館」。この2つの新校舎で、龍谷大学の学生さんたちには、これから人生の灯火となっていくような多くの言葉に出あって欲しい、と心から願っています。

氏名 \_\_\_\_\_ 卒年 \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_  
高千穂 光正 24 実践  
真宗了  
校友会会長 学長名で  
祝電をお贈りします。  
お申し込みは以下の  
QRコードで 筆式  
の1週間前まで。

「結婚おめでとう」が届きます  
答えが分かった方は下記  
QRコードまたはハガキ  
(氏名、卒業学部、住所  
は必須、近況報告など  
で応募ください。  
ハガキ送付先  
〒612-8577  
京都市伏見区深草塚本町67  
龍谷大学校友会事務局  
正解者の中から抽選で20名様に龍谷  
大学校友会記念品をお送りします。  
◎応募締め切り:5月末日  
101号第1回パズルの答え  
「龍谷大学」

## 経済学部同窓会

### 第10回ビジネスミーティングを開催しました

11月2日、第10回ビジネス・ミーティングを開催しました。本会は、校友同士の横のつながりを育むことを目的に、毎年「ビジネス」をキーワードとして実施しています。今回は作家・建築家・芸術家として活躍する坂口恭平氏を講師に迎え、著書『生きのびるための事務』をテーマに講演いただきました。事務を創造的な営みとして捉え直す視点や、自分らしい生き方・働き方のヒントが示され、参加者に新たな気づきをもたらす機会となりました。



## 経営学部同窓会

### 「創設55周年記念事業」-「大阪・関西万博を訪ねるバスツアー」開催

9月7日、経営学部同窓会創設55周年記念事業として開催しました。2025年卒業生から、1歳のお子さんとともに参加された卒業生まで、幅広い世代から80名が参加。入場チケット、貸切バス、ピュッフェレストランが付いた企画で、参加者の半数近くが万博初体験でした。「万博はあきらめていたが参加できて良かった」「疲れたが充実していた」などの声が寄せられました。経営学部同窓会はこれまでも愛知万博、上海万博ツアーを実施しており、地元大阪で開催される万博を55周年の節目に実現した記念事業となりました。



## 法学部同窓会

### 「秋の交流イベントー深草キャンパスの進化をめぐる旅ー」開催

11月15日、秋の交流イベントを開催しました。今回は完成した新棟のお披露目も兼ね、深草キャンパスを会場に実施。学生団体の協力によるキャンパスツアー、法学部長・越山先生による学部紹介とミニ授業、懇親会を行いました。参加者からは「キャンパスの変化に驚いた」「学生ガイドが分かりやすかった」など好評の声が寄せられ、旧友との再会も含め、充実したひとときとなりました。



移動法律相談所を今年も開催  
9月28日、学生法律相談部の無料法律相談を大学、実務家OBと共に奈良県で開催しました。



## 支部の活動

### 東京支部設立20周年記念パーティーを開催



10月18日、東京・銀座「THE GRAND GINJANA」にて東京支部設立20周年記念パーティーが開催され、世代や業種を超えて多くの校友が集いました。

冒頭では、吉本興業所属の川西賢志郎さん(02経済入学)と、進行役の木村博史さん(インプリメント株式会社社長・95法卒)によるトークショーが行われ、仕事観や人生の決断をめぐる話に会場が温かな雰囲気になりました。続いて、プロボクサーの福家由布季選手(19文卒)、谷口将隆選手(16文卒)、竹迫司登選手(10経済入学)が紹介され、大きな拍手が送られました。

後半では、異業種交流イベントとして、株式会社アミューズミュージックエンタテインメント代表取締役 西正樹さん(98文)が人生にともるのです。それが今ここにたまわっている「いのち」を真摯に生きるというのではないでしょう。先日、インターネットでシルバー川柳というのを見かけました。「味のある字と誉められた 手の震え」「目覚ましの ベルはまだか」と 起きて待つ」「カード増え 暗証番号 裏にかき」本性が 出ると言うから ぼけられぬ「うまかった 何を食べたか 忘れたが」「つまづいた ふと見た

第2回 仏教パズル  
【問題】四字熟語のパズルです。漢字をカタカナにして空欄を埋めてください。○印の文字を並べ替えてできる建物は何? 【出題:小川信正】

1	2		3		4	
			5		6	
7		8		9		10
11	○		12			
				13	14	
	15	16		○		
17			○	18	○	19
	20			21		
22				23		
		24		25		

タテ  
2. ○○整然 3. ○○物々 4. ○○転変 5. ○○耽々 6. ○○薄弱 7. 生生○○ 8. ○○一会 9. ○○八苦 10. ○○仏閣 12. ○○転生 14. ○○成仏 15. ○○是空 16. ○○一樣 19. ○○三嘆 22. 厭離○○ 23. ○○不実  
ヨコ  
1. ○○本願 2. ○○尚早 4. ○○左眇 5. ○○来歴 6. ○○諸諾 8. ○○薄弱 9. ○○身中 11. ○○無用 12. 愛別○○ 13. ○○定離 16. ○○法爾 17. ○○畜生 18. ○○兄弟 20. ○○効果 21. ○衣帯水 22. 怨憎○○ 24. ○○闊歩 25. ○○供物

語り、参加者に深い感銘を与えました。20周年にふさわしい、つながりの力を再確認する一日となりました。

# 仏教に学ぶ

## 「親鸞聖人の他力について」

2025年度「第2回龍谷大学心の講座」 7月26日開催より

行信教校校長  
あまぎし じょうえん  
**天岸 浄圓**



プロフィール  
1949年大阪市生まれ  
1972年龍谷大学文学部卒業。  
本願寺派司教、本願寺派布教使、  
行信教校校長  
浄土真宗本願寺派西光寺住職。  
『御文章ひらがな版を読む』  
『無明の酔いをさます阿彌陀仏の薬』  
など多数執筆。

一、すべての人に開かれた宗教的自由と平等の夜明け

親鸞聖人が歩まれた道の根幹には、師である法然聖人が打ち立てた日本の仏教史上類を見ない壮大な転換点がありました。法然聖人が何よりも大切にされたのは、宗教における「自由性」と「平等性」です。それは、特定の身分や特別な修行ができる者だけが救われるということではなく、いかなる立場にある人であっても、自分自身の主体的な心で依

り所にできる教えを確立することでした。

科学的意識や基本的人権といった概念が一般に広まっていなかった時代に、法然聖人は「誰もがその人らしく救われていく道」を見出しました。この確信こそが、「他力」という言葉で表現される、すべての人を温かく迎え入れる仏教の真髄となったのです。

二、「共に集う空間」が象徴する調和の精神

浄土真宗の寺院には、仏様を仰ぐ「内陣」とともに、

私たちが集い、座って教えを聞くための「下陣(げじん)」という広い空間が設けられています。これは、寺院に限られた人のための場所ではなく、誰もが自らの意思で歩み寄り、共に教えに耳を傾ける場所であること

法然聖人は、性別や社会的境遇、あるいは縁の深浅によって救いに差が生じることに根源的な光を当て、老若男女、貧しい人々や縁の薄い人々も、「誰もが等しく依り所にできる宗教」として形を整えられました。

お寺に行けば誰もが座れる場所があるという事実は、そのまま仏教がすべての人に対して「どうぞこちらへ」と開かれている姿勢を表しているのです。

三、「皆どうぞ」という無条件の大きな招き

法然聖人が唱えた「他力」

の思想は、従来の仏教が「善いことをし、悪いことを慎む」という、いわば「できるかできないか」という条件が伴う「自力(自己努力)」の道であったのに対し、「皆どうぞ」という無条件の受け入れを意味します。

自らの力で何とかしようとする努力も尊いものです。法然聖人が見出した「他力の道は、そうした努力の有無に関わらず、すべての存在をそのまま受け入れようとする大きな願いに基づいています。

四、慈悲に基づく確かな選択としての「本願」

法然聖人の教えの中で最も力強い概念の一つが、阿彌陀仏の「選択本願(せんじゃくほんがん)」です。これは、仏が「他力」という分け隔てのない、最も広く救いをもたらす道を選び取られたことを意味します。仏

は、一部の人がだけ歩める険しい道を選び捨てて、誰もが安心して共に歩める平坦で広い道こそを、私たちのために用意してください。

この選択によって、仏教は初めて一般大衆一人ひとりの手元に届くものとなり、真の意味で「開かれた宗教」として浄土宗が確立されました。

五、「お任せください」という呼びかけに込める心

親鸞聖人は、この法然聖人が確立した他力の純粋性をさらに深く突き詰められました。親鸞聖人が説かれた「他力の信心」とは、私たちが仏をどう信じるかという自力的な決意ではなく、仏の側からの「私に任せなさい」という呼びかけを、そのまま受け入れたときに成り立つ心です。念仏を称えることもまた、「助けてほし

い」という願い以上に、仏の呼びかけに対する「お任せします」という感謝の応答として位置づけられました。すべてを仏の願いに委ねることで、人は自らの力みから解放され、真に自由な境地へと導かれていくのです。

六、「慈悲」の光に照らされて見出される「救い」

親鸞聖人が到達された「救い」の境地とは、仏という尊い依り所に巡り合うことで、自分自身の真実の姿を穏やかに自覚していくのです。



仏の教えの本質である「慈悲」とは、他者を慈しみ、その苦しみを我がこととして受け止めようとする、どこまでも深い願いです。

阿彌陀仏をよりどころにして「慈悲」を心掛けると、自身の「無慈悲性」に気づくのです。その時に初めて「凡夫」という言葉が実感されます。そして自分を顧みれば、どんな生き方をしているかの自覚や恥じらいに気づくことが、そっと生き方を変えてくれる力になるのではないのでしょうか。

信仰の平等性と自由性を「他力」と表現した法然聖人、さらには阿彌陀仏の純粋性を徹底的に明らかにしようとしたのが親鸞聖人の「他力」という言葉の使い方であったのです。

校友会ホームページでオンライン配信  
QRコード

校友のお店  
楽食居酒屋  
「三百円このみ」  
一人ひとりが  
笑顔になれるように  
昭和の個人商店をめざして



全品三百円均一!  
70種類ものこだわりメニューが楽しめる居酒屋  
昭和の個人商店のように、訪れた人が一人でも多く笑顔になれる場所を

つくりたい。そんな思いから、全品三百円均一・約70種類のこだわりメニューを揃えた居酒屋を営んでいます。

気づけば龍大を卒業して40年近く。学生時代はアルバイトと部活に明け暮れ、留年までしてしまった私ですが、当時のゼミ教授が今も同窓会で店を利用してくださるこ

株式会社木乃実  
代表取締役  
弓削 伊織さん  
(87年法卒)

校友会ホームページ「校友 KIKOU」より



とは、何よりの励みです。卒業後は家業を継ぐ準備として大手外食チェーンに就職しました。今では考えられないほど厳しい勤務環境でしたが、成果がそのまま昇進につながる社風に魅力を感じ、がむしゃらに働きました。その経験を糧に家業へ戻り、現在に至ります。コロナ禍では苦しい時



2025年3月にオープン  
小さな会社だからこそできる細やかな店づくりを大切に、一攫千金ではなく、地道に「パントヒット」を積み重ねることを

店舗紹介

- ◆『三百円このみ本店』  
大阪市都島区東野田町 3-10-10
- ◆『三百円このみ』  
大阪市都島区東野田町 3-6-25
- ◆『三百円このみ 樽葉店』  
枚方市樽葉花園町 14-3  
エルくずは味のれん街
- ◆『どん井』  
大阪市都島区東野田町 3-10-4

期もありましたが、今は大阪・京橋に3店舗、樽葉に1店舗を構え、地域に根ざした店として多くのお客様に支えていただいています。

運営するTS&G株式会社  
の理念は「売り手よし・買い手よし・世間よし」。近江商人の精神を受け継ぎ、Three Side Goodの頭文字を社名に掲げました。

信条としています。仲間もお客様も取引先も、関わるすべての人が笑顔になれる場所でありたい。これからも、リーズナブルで上質な飲食を楽しんでいただけるよう努力を続けてまいります。

### 編集後記

◆「龍谷大学校友会報」は、25年9月発行の第101号から、変わりゆく「学び舎」と同じくして、より親しみやすく、より読みやすく、そして、よりSNS等デジタルツールと連携した形で編集し、みなさまにお届けしています。

◆今号においては、『いまむかし』『つながり』について、さまざまなアプローチから取材、編集し、構成しました。

◆お読みいただいたあと、龍谷大学とのつながりをよ

り感じ、あしたからのエネルギーになれば幸いです。

◆そして、ぜひ、校友会の活動、校友会各支部の活動にご参加いただければ幸いです。

◆校友会では、校友の参加を活発にしていきたいために、さまざまな世代にあわせた事業(イベント)を企画しています。

◆詳しくは、校友会HP、各種SNSにより発信していますので、フォロー等お願いします。

◆みなさまのご参加をお待ち申し上げます。  
(広報部会 佐古田英樹)